



Title	はしがき
Author(s)	小内, 透
Citation	北海道アイヌ民族生活実態調査報告 : Ainu Report, 3
Issue Date	2014-03-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/59128
Type	bulletin (other)
File Information	AINUrep03_0.pdf



[Instructions for use](#)

は し が き

北海道大学アイヌ・先住民研究センターは、2007年の開設以来、様々な研究プロジェクトを立ち上げ、アイヌ民族との協同を基本方針として事業を推進している。

社会調査プロジェクトはその1つとして位置づけられ、2008年と2009年にアイヌ民族の方々を対象とした生活実態調査を実施した。2008年の調査は、できる限り多くの方を対象に、教育・就労・生活・意識などの幅広い側面から、社会的にアイヌ民族の生活状況・意識を明らかにすることを目的とした。2009年には、アイヌ民族の生活状況や意識をより深く把握することを目的として、インタビュー法による質的な調査が実施された。調査にあたって、アイヌ民族が数多く居住する札幌市とむかわ町の2つの地域を選定し、そこに住むアイヌ民族の方々にお話を聞かせて頂いた。

2008年調査の結果は、『2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告 現代アイヌの生活と意識』（2010年3月）として公表され、英語版（2011年3月）も作成された。報告書では、アイヌ民族の人々は現代に至っても、生活の様々な面で、「和人」と比べ条件的に厳しい状況に置かれていることが明らかにされた。これに対し、2009年調査の報告書（『2009年北海道アイヌ民族生活実態調査報告 現代アイヌの生活の歩みと意識の変容』（2012年3月））では、アイヌ民族の家族・アイデンティティ・文化活動などについてより深い分析を行うとともに、差別の実相についての分析も加えた。それにより、アイヌ民族の現実の姿をより深く把握でき、アイヌ民族に属する人々の多様性が浮き彫りになった。

今回、これらの報告書をふまえ、2009年調査の分析で浮かび上がったアイヌ民族の多様性という視点から、改めて2008年調査で得られた大量のデータを再分析することにした。2008年調査の報告書では、「和人」との比較の観点が前面におかれたため、アイヌ民族の多様性の観点は弱かった。この観点から大量データの再分析を行うことにより、2009年のインタビュー調査で浮かび上がったアイヌ民族の多様性に関する諸特徴が、札幌市やむかわ町だけでなく、どこまで一般化できるかを確認することも可能になると考えた。

ただし、2008年調査と2009年調査では、調査の焦点が同じではなく、質問の形式や項目も異なっている。そのため、2009年調査の報告書で取り上げられた論点を深めるには、データが十分ではないかもしれない。調査の項目、方法・対象など見直して改めて精度の高いデータを得るための調査を実施するという考え方も成り立つ。しかし、多くのアイヌ民族の方々に貴重な時間を割いて調査に協力して頂いたことをふまえ、そこで得られた大量のデータを大切に、新たな視点と工夫により、独自の形で再分析することにした。

改めて、調査に協力して頂いた皆様にお礼を申し上げます。

北海道大学アイヌ・先住民研究センター兼務教員

北海道大学大学院教育学研究院

小内 透